

# **FUKAYA News Release**

## **市長定例記者会見次第**

平成 30 年 12 月 21 日（金）  
午前 11 時～

1. あいさつ

2. 発表内容

(1) 【市民の生命、財産を守る！】 『機動消防中隊』を設立

1

3. 次回日程 定例記者会見

会場：市長公室

日時：平成 31 年 1 月 29 日（火）午前 10 時 30 分～11 時 30 分

市民の生命、財産を守る！  
『機動消火中隊』を設立



■ 目的等

平成28年12月に新潟県糸魚川市で発生した大規模火災を受け、火災損害額の減少につなげ、市民の生命、身体、財産を守るため、火災発生時に出場から放水を開始するまでの時間短縮を図ることを目的に実施

【目標値（深谷市総合計画前期基本計画より）】

6分30秒（車両が署を出てから放水開始までの時間）

■ 従来の出場計画

消防署から1台、消防分署から3台の水槽付きポンプ車が出動し、それぞれが、消火栓や防火水槽などの水利設備に配置し、現場で調整しながら単独活動で消火。また、1車両に5人乗車し、通常の建物火災では20人出場する場合が多い。

■ 従来の出場計画の課題

- ・1車両ごとに水利を探し、消火に当たるため放水に至るまでに時間を要する。

- ・分署では通常6名ほどが交代で勤務しており、火災が発生すると6人中5人が火災現場に向かうことになる。そのため、火災発生地区で救急車などが必要な状況が発生すると、他の地区から駆けつける体制になる。

## ■新しい消防戦術

### (1) 機動消火中隊の新設

機動消火中隊とは、火災発生時に、深谷市消防本部の拠点となる深谷消防署または花園消防署から2台の消防ポンプ車両が同時に出場する仕組み。

中隊に配属されている『特別救助隊員』が、火災の特性や発生した災害に合わせて救助車、ポンプ車、はしご車等に乗り換えて運用を実施する。

### (2) 県内初の『現地合流型ペア運用』の実施

消防署からの『機動消火中隊』2台1ペアと、消防分署からの4台が出場。消防分署隊の4台は事前に定めた出場計画により、現地で合流し2つのペアとなり消火活動(『現地合流型ペア運用』)にあたる。

それぞれのペアのうち、先についた隊は水利を探すことなく、建物に近づいて放水を開始、後着隊は電動ホース車を活用し、先着隊が持続的に放水できるように消火栓などの水利施設とホースを中継する。

また、1車両に乗車する人数は3名とし、最新の機材を活用し、効率的な運用を図る。

### ・『新・消防戦術』での活動イメージ



## ■従来の運用との変更点

- ・1車両に乗車する人数の見直し(5名→3名)
- ・前線で即時に消火に当たる車両と後続で水利確保を行う車両の役割分担の明確化
- ・『機動消火中隊』新設に伴う、出動時に選択する車両の弾力的な運用

## ■ 『新・消防戦術』試験運用中の効果

平成29年度の現場到着から放水開始の平均時間は約2分。

『新・消防戦術』開始後の1件目の火災では1分5秒、2件目では34秒と短縮している。

また、出場人員の見直しを行ったことで、火災現場での消防力を落とさず、火災出場中の分署から、救急出場が可能な体制を整えることが可能になった。

## ■ 効果

今回の取り組みを『深谷式 新・消防戦術現地合流型ペア運用ファストアタック PRIDEⅢ』と名付け、限られた車両と人員で今まで以上に機動力を高め、放水開始時間を短縮し同時に、火災損害額の減少につなげ、市民の生命、身体、財産を守ります。

## ■ 問い合わせ先

深谷市消防本部 警防課 ☎048-571-0914

## 『新・消防戦術』を効果的に運用するための施設・車両

### ・高機能消防指令センター（システム）

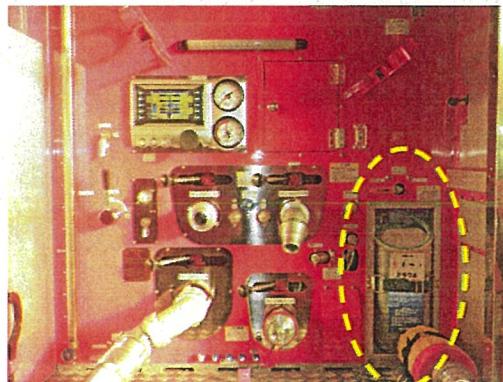
平成28年に事業費約2億5,900万円で導入。高精度のGPSシステムを搭載しており、車両に搭載されているGPS機能と連動し、車両がどこにいるのかを把握できる。そのため、災害時には、発生現場の一番近くにいる車両を把握し、指示を出すことができる。



### ・圧縮空気泡消火装置（キャフス）積載車両



▲キャフス搭載ポンプ車



▲ポンプ車の操作盤。右下の丸印が薬剤

平成16年度以降に更新したポンプ車両は全て『圧縮空気泡消火装置（CAFS:キャフス）』搭載車両となっている。『圧縮空気泡消火装置』とは、水と消火薬剤を混合したものに圧縮した空気送り込み放水する装置で、水だけを放水するよりも軽くなり、取り扱いがしやすく、水利設備につなげない場合でも約20分間放水をすることができる。

### ・電動ホースカー

今まで隊員2人でホースを運んでいたが、『電動ホースカー』を導入したことにより、ホースを1人で、より遠くまで楽に運べるようになった。

圧縮空気泡消火装置と電動ホースカー、両方を搭載した車両は1台約5,000万円

